

相模原市麻溝地区の子育てサロン「空とぶクレヨン」は、妊娠中の母親やゼロ歳児を持つ新米ママが気軽に集えて、交流できる場だ。同地区の社会福祉協議会副会長の横田愛子さん(70)宅の1部屋を開放して、毎月第3木曜日10時から11時30分まで開かれている。

横田さんは「空とぶクレヨン」という名前に、「一箱のクレヨンにいろいろな色があるように、様々な個性のある子どもたちが大きく羽ばたいて行ってほしい」との願いを込めて、04年11月に開設した。当時、乳児が安心して過ごせる場がなかったため、「私の家でサロンを開こう」と思い立った。

フロアは床暖房も備えた広さ12畳ほどのコルク敷き。やってきた親子は好きな場所に座ると、後は自

# 子育てサロン「空とぶクレヨン」

## 妊娠中とゼロ歳児を持つ母親に心の触れ合いの場を



サロンでは帰省の方法や父親の手伝いなど、様々な話題がのぼる

由。乳児たちの可愛い声に混じって母親たちのおしゃべりが聞こえる。

サロンに決まったメニューはない。横田さんと2人のサポーターは、親子と談笑しながら見守っている。「何か聞ければ、自分たちの経験を話さだけです」

参加者の田中綾さんは母親同士の交流を求めて、市に相談した。同サロンを紹介され、「友だちもでき、地域の人と年代を超えた交流もできて、うれしいです」と喜ぶ。

九州から今年1月に引つ

越して来た田尻由紀さんは「病院などの情報も知りたくて」に参加。「私も話し相手がいって楽しいです」と続けた。

友人の紹介で参加した内藤香里さんは「自分の母親が知らないような最近の情報を先輩ママから聞いて、子育てに生かしています」。

誕生月になると、色紙に手形と足形を取って「卒業」する。色紙には書道師範の横田さんがみんなの希望する言葉を書き添える。子育てに悩む母親を「放っておけない」と思ってきた。親子2人だけになるとを心配する。

「子どもは大勢の中で育つと思いが育ちます。お母さんいろいろな人と会話のキャッチボールをして、自分の考えを広げてほしいです」と話し、同サロンが心の触れ合いの場となることを願っている。